

山梨県立中央病院 医療連携 だより

センター 紹介

地域連携・入退院支援・患者相談 チームワークで取り組み 早くきれいに治す

平素より、当院との医療連携に関してご理解とご協力をいただきありがとうございます。

当院は地域医療支援病院として、県民の皆様の医療を担ってまいりました。当センターはその役割を果たすべく、「地域連携センター」に「入退院センター」が加わり、名称を「患者支援センター」と変更して1年がたちました。

患者支援センターでは地域連携・入退院支援・患者相談を3つの柱とし、急性期治療・専門治療を乗り越えた患者さんが一日にも早く地域に戻れるよう、患者さんやそのご家族の力になれるよう、医師、看護師、保健師、ソーシャルワーカー、事務員など多職種のチームで取り組んでいます。今年度は社会福祉士1名・看護師1名・管理栄養士1名が増員され、総勢24名の職員で「早くきれいに治す」そして退院後も希望の環境で治療・療養が継続できるように患者さんの支援に、力を入れていきます。

今後も病院機能の役割分担を意識し、地域の医療機関との連携を深めていきたいと考えておりますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1
TEL.055-253-7111/FAX. (直通) 055-253-2903

Rehabilitation to cure quickly and cleanly

早く きれいに治すリハビリテーション



リハビリテーション科
部長

佐久間 陸友

当科は、『早く きれいに治す リハビリテーション』の基本理念のもと、臨床・教育・連携を柱に、すべては患者様のために、日本一のリハビリテーション医療を目指し日々努力を重ねております。

また当科は、リハビリテーション部長を筆頭に理学療法士(PT)8名、作業療法士(OT)4名、言語聴覚士(ST)3名、業務補助者1名の計17名体制で、急性期から緩和ケアまで関わるリハビリテーションを提供しています。

CHECK 1

高度急性期医療の中でのリハビリテーション

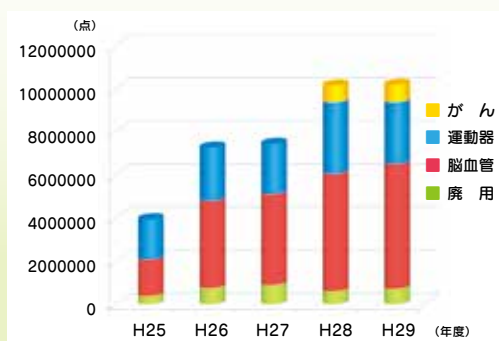
当院は山梨県で唯一の三次救急を受け入れており、都道府県がん診療拠点病院にも指定されています。当科ではドクターヘリ、ドクターカー等で救急搬送された患者さんをはじめ、手術前後からの超急性期リハビリテーション介入を行っています。入院直後から心身機能を低下させないために、点滴・心電図モニター・人工呼吸器等を装着した重症患者さんでも、医師の指示のもと病棟看護師などと連携し病棟ベッドサイドから介入しています。



当院のリハビリテーションの現状

- 1 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 2 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- 3 がん患者リハビリテーション料
- 4 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)

以上のリハビリテーション算定により、急性期(4を除く)からのリハビリテーション医療の介入(理学療法、作業療法、言語聴覚療法)に努めています。



年度別の疾患別リハビリテーション算定点数

当科に所属する専門職

1. PTによる理学療法

受傷・発症後早期から、運動機能の改善を図る目的で、座る・立つ・歩くなどの基本動作能力の回復を目指した運動療法を実施します。



2. OTによる作業療法

受傷・発症後早期から、退院後の日常生活自立を目標に、作業活動を通じた機能・能力の回復治療を実施します。



3. STによる言語聴覚療法

受傷・発症後早期から、コミュニケーションや嚥下機能に困難を呈した患者さんに対して、検査・評価を行い、一人一人に見合った治療プログラムにより、社会復帰や自分らしい生活ができるよう支援していきます。



他部門との連携強化

リハビリテーション科では科内だけの業務にとどまらず、チーム医療を通じ他部門との連携を図り、幅広い角度からのアプローチにより、最大限の治療効果が得られるよう総合的なリハビリテーション医療を行っています。

連携の一例をご紹介します。



リハビリテーション科フロアを会場に、各種研修会が開催されます

1. 病棟との定期カンファランス及び回診を行い、患者さんのリハビリテーション進行具合や病棟からの情報を共有し、病棟生活に反映させ、退院・転院へ向けた協議にも介入しています。
2. 呼吸サポートチーム(RST)として参画し、主に人工呼吸器装着者(児)を対象に病棟回診を行い、呼吸療法や呼吸器ケアの助言、指導を行っています。
3. 栄養サポートチーム(NST)として参画し、患者さんの栄養を多職種専門スタッフで最もふさわしい方法で栄養状態を保つためのサポートを行っています。
4. 糖尿病教育入院患者さんへの運動指導を実施し、安全に血糖コントロール改善に繋がるように運動を通じサポートしています。

5. 安全なリハビリテーション医療が行えるよう、万に備えた訓練を関係部署と連携し、急変時の対応や一次救命処置(BLS)を定期的に訓練しています。



6. 院外医療機関との連携として、主に回復期病院との症例検討会や学習会などを開催し、転院後の患者動向や、医療技術のレベルアップを目的に実施しています。

7. 院内外で行う各種研修の際には講師として派遣され、チーム医療の一躍を担っています。



すべては患者様のために

～日本一のリハビリテーション医療を目指します～

『早く きれいに治す リハビリテーション』の基本理念のもと、チームで拓きチームで連携するチームリハビリテーションの推進に日々努力を重ね、地域でご尽力されておられる医療機関の皆様にご貢献できますよう、すべては患者さんのために、ここ山梨の地から地域医療機関の皆様とともに日本一のリハビリテーション医療を目指し邁進していきたいと思っています。



リハビリテーション科スタッフ一同

2018
地域連携
研修会
H30年度

2.22 THU

周産期・小児科分野における
『地域連携支援事例の報告』

平成30年2月22日(木)、当院看護研修室にて、第138回山梨県周産期医療懇話会との共催により地域連携研修会を開催しました。

今回は患者支援センターより、「特定妊婦への支援」や「重症心身障害児への福祉サービスの導入」など周産期・小児科分野において当院にて地域連携支援を行った事例について報告させていただきました。

院外からは、医療機関、市町村保健師、児童相談所、児童福祉施設など多くの関係機関の方々にご参加いただき、事例に対して活発な討論や貴重なご意見をいただいた有意義な会となりました。



3.2 FRI

「整形外科から診たリウマチ診療」

平成30年3月2日(金)、当院多目的ホールにて地域連携研修会が開催されました。

平成横浜病院整形外科・リウマチ科の伊藤勝己先生にお越しいただき、「リウマチと間違えられやすい疾患」「バイオの長期成績から」「年間推定進行率」「リウマチの手術療法」について、とても分かりやすく、ご講演いただきました。

院外より21名のご出席をいただき、院内からも17名の職員が参加いたしました。ご参加いただいた方々から「一般的な形成外科疾患と考えられる疾患でリウマチを疑わせる疾患があると分かった」「整形外科の立場でのリウマチ診療のアプローチを再確認することができた」等の感想をいただきました。



地域連携研修会が
開催されました

次回研修会

H30年

日時: 6月6日(水) / 18:30~19:45

場所: 山梨県立中央病院 2F 多目的ホール

甲府市富士見1-1-1 055-253-7111

題名: 『医療現場において発生する
トラブルと事前・事後の対処法』

講師: 北浜法律事務所・外国法共同事業

医師・弁護士 長谷部 圭司 先生

H30年

日時: 6月13日(水) / 18:00~19:00

場所: 山梨県立中央病院 2F 看護研修室

甲府市富士見1-1-1 055-253-7111

題名: 『がん疼痛の薬物治療
こんなにあるの!?オピオイド!』

講師: 山梨県立中央病院 緩和ケア科

部長 許山 美和 医師

研修会の情報はホームページでもご案内しています。
併せてご覧ください。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、
かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1

かかりつけの
医院を受診

紹介状をもらって
ください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)